地域と連携し、主体的に行動する児童を育成する防災カリキュラムの作成

南あわじ市立福良小学校
主幹教諭　浅井　裕治

１　取組の内容・方法

（１）児童の発達段階に応じた系統的で体系化された防災教育カリキュラムの在り方

①　全教科での防災の視点を明確にしたカリキュラムと授業づくり。

・防災意識の継続と防災の基礎知識の習得を目的に全教科の単元にわたって防災に関わる教材･題材を既存の授業内で扱うことができるかを研究した。

②　防災関連事物を教材や題材として、授業内で扱う実践の展開。

・防災関連事物と関連を持たせた授業展開について可能な教科の研究を進めてきた。この研究をもとに授業実践を積み重ね、精選した。

③　①、②を踏まえて防災教育の視点を取り入れた防災教育実践研究。

・防災教育の視点としてＡ、Ｂ、Ｃを設定した教科授業の展開。

視点（Ａ）…指導要領の目標内容レベルで防災教育に関連するもの
〔社会科・理科・家庭科・体育科・道徳科・特別活動　等〕

視点（Ｂ）…指導要領の目標内容レベルではなく、教材・題材レベルで関連するもの

国語科…文章・資料写真を扱う
算数科…災害に関連する問題
図工科…ポスター・新聞を扱う　等

視点（Ｃ）…活動レベルのもの
〔総合的な学習の時間･特別活動・自立活動　等〕

（２）学校と地域家庭、関係機関が連携した防災教育カリキュラムの在り方

①　総合的な学習の時間を活用したカリキュラム作成

・教科学習（防災の視点を含む）関連させ、地域の「人」、「もの」、「こと」を活用して、課題解決に向けた活動を展開していく。

【探究課題】

３年生…「福良のまち（ふしぎ）をさぐろう」
４年生…「大好き！福良の人・まち・自然」
５年生…「福良防災体制改善プロジェクト」
６年生…「つながろう！つなげよう！未来へ！」

② 地域･家庭･学校合同防災訓練の実施

・平成２６年度から福良地区まちづくり協議会と協力して実施。福良地区自治会との打合せの後、自治会を通してチラシを全戸配布。

【交流を兼ねた防災学習】

平成２８年度「兵庫県総合防災訓練」

平成２９年度「舞子高校環境防災科による防災マップづくり」

平成３０年度「人と防災未来センター研究員の講話」

令和　元年度「東北ボランティア活動　報告会」

【炊出し訓練・防災食の試食】

・福良地区自治会女性部の炊出し訓練として実施。毎年、実施内容を検討しながらよりよいものへ改善しながら進めている。

・防災食の試食は、炊出し訓練の検討の成果が試食の反応として現れる。

【福良地区まちづくり協議会との連携　関連団体】

・自治会、大学関係者、県民局、市役所、商工会、消防団、学校。

・神戸大学大学院との連携…福良地区ジオラマを防災学習に活用。

【地域･家庭･学校合同防災訓練の様子】

<住民一次避難>

<防災食試食>

<一斉下校>

（３）主体的に行動できる児童の育成をめざす防災教育カリキュラムの在り方

○（１）・（２）のカリキュラムの展開や訓練等で子どもが思考力･判断力･表現力を生かして危機想定力や危機管理力に繋げるとともに、主体的に取り組む態度や行動できる力を培う。

① 地域･家庭学校合同防災訓練

・避難行動や防災学習を通して、災害のことについて知り、災害を自分事として捉えられる機会とする。

② 園･小連携合同避難訓練

・地震発生時に身を守るための適切な行動をとることができる。

・大津波が想定される地震時に迅速に高台へ二次避難することができる。

・自分の命を自分で守るだけでなく、高学年児童については、避難行動用支援者である乳幼児などと共に安全に避難するための共助の意識を高める。

③　予告なしの避難訓練

・３学期に実施。３学期当初に児童朝会で全員に告知する。実施については、２月末までとし、時間は事前に告知しない。

⇒マニュアルの周知徹底並びに検討。児童も教職員もその日の行動について振り返りって、今後の有事に備える。

④　委員会活動での取組（生活委員会・児童会運営委員会）

・防災啓発ポスターの作成　・防災標語づくり　・あいさつ運動

・東北ボランティア活動への参加

⑤　学級活動を活用した防災啓発活動

・６年生による活動、５つの視点から防災カード「福良小学校防災二十五箇条」を作成。

２　取組の成果

（１）児童の意識の変容…主体的な判断と行動が取れるようになった。

・アンケート結果においても災害時の基本的動作を取れるようになったことや自分たちの地域に対する知識の向上、家族と話し合いを持つことで家庭全体での災害に対する意識の向上にも繋がった。

・研究期間中に発生した大阪北部地震（H30.6.18）や紀伊水道での地震（H31.3.13）において、児童が自ら考え行動することができた。

【H29 年度～R1 年度　校内アンケートの結果から（５年生）】

質問内容	H29	H30	R1
・自分の地区の予想最大震度を知っている	20.0	59.2	80.0
・地震発生時に取る行動	82.5	88.8	96.6
・家族との集合場所の確認	32.5	25.9	60.0
・非常時の備蓄はどこに	45.0	66.6	53.3
・防災イベントへの参加	25.0	11.1	53.3
・1.17に家族会議	20.0	29.6	30.0

（２）教師の意識の変容…カリキュラムマネジメントと防災スキルアップ

・今回の研究から教科カリキュラムを基にして防災の視点をどのように授業に組み入れ展開していくかを考えるとともに、訓練等での活動によって、防災に対する個人のスキルアップに繋がった。

（３）よりよい社会づくりへの連携強化…社会に開かれた教育課程の編成

・教科でのカリキュラムづくりから、総合的な学習の内容をマネジメントしつつ、クロスカリキュラムについても考え構成したことにより、地域の人材等の資源を活用することができた。

（４）専門家との連携…新しい情報・知識の習得、適切な助言

・（一財）総合初等教育研究所参与　北　俊夫先生をはじめ、３年間、様々な関係機関の先生方からの研修等により、新学習指導要領や防災教育の在り方について等、多くの情報を得られる機会となった。

３　課題及び今後の取組の方向

（１）カリキュラムの見直し

・新学習指導要領実施に伴い、単元名や目標、内容等の見直しは実施しなければならない。また、本市においては国語科の教科書が変更となり、大幅な見直しを進めなければならない。また総合的な学習の時間については、既存のものを活用し、よりよい学習に繋げるために単元や学習内容の見直しについても地域との連携が不可欠である。今後、教職員のレベルアップに繋げていくためにも、それぞれが意識を持ってカリキュラムの改訂に取り組まなければならない。

（２）教職員の資質向上

・今回の研究において、教職員の意識の向上とスキルアップには繋がったが、それでもまだ十分とは言えず、児童に対して防災教育を自分事として捉えられるようにするためには、教職員のさらなるレベルアップが必須である。訓練や授業においても自発的にできるようにする意識や防災教育の必要性を実感することが重要である。

（３）防災教育コーディネーターの役割と防災教育の重要性

・３年間の研究課程において、地域との連携を図るには、地域と学校を結び付けるコーディネートを進める必要がある。防災教育担当者が進めてきたコーディネートを引継ぎ、改善し、よりよいものにしていくためには、防災教育担当者の役割を明確にすることや学校全体として地域との繋がりを持つことが重要である。自然災害が頻繁に起こっている現代では、今、自分の身を守ることだけでなく、生涯教育としての防災教育が必要となってきている。子どもたちの未来に向けて、どんな場所でも自分の身を守ることや周囲の人を助けることなど、どのような場所においてもコミュニティを作っていけるような防災教育を進めていくことが求められている。

（４）評価・検証について

・地域とともに進めてきた防災教育のカリキュラムについては、地域とともにＰＤＣＡサイクルを進めていく必要がある。プランニングから実践、実証、反省、改善を繰り替えしていくことによって、活動が醸成され、よりよいものになっていく。また地域も学校も関わる人が代わっていくにつれ、捉え方や熱量が変化してくる。ＰＤＣＡサイクルを構築することが、今後も継続できる防災教育の取組に繋がっていく。